

6467 ニチダイ

古屋 元伸 (フルヤ モトノブ)

株式会社ニチダイ社長

2 事業の売上高が低調に推移し、通期業績予想を修正

◆事業紹介

ニチダイグループは、ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業、フィルタ事業の三つの事業で成り立っている。本年、当社は法人となって 50 年目の節目を迎えたが、創業時の事業がネットシェイプ事業で、自動車のエンジン、トランスミッション、駆動系部品のギア形状の物等鉄系部品製造に使用される精密鍛造用金型の設計・製造がメインである。金型技術を生かし、カーエアコン用スクロール部品等、高付加価値精密鍛造品を生産している。

アッセンブリ事業は、VG ターボチャージャー部品の組み立てを行っている。100%三菱重工向けターボチャージャー用部品、排気ガスを取り込む部品を製造している。最近ではガソリンエンジン車用ターボチャージャー部品の生産量が増加している。この 2 事業は、タイ・バンコク近郊のアマタナコン工業団地に生産拠点としてニチダイタイランド(NDT)を置き、またタイおよび米国に販売拠点がある。

フィルタ事業は、積層焼結金網フィルタを製造している。石油・ガス・化学・繊維・食品・航空宇宙産業等多様な産業分野で使用されている。この事業は子会社であるニチダイフィルタ(NFC)で行っており、生産拠点としてタイ北部のチェンマイ近郊に、タイ・シンタードメッシュ(TSM)社がある。

◆2017 年 3 月期第 2 四半期決算概要

売上高 67 億 90 百万円(前年同期比 5.3%減)、営業利益 1 億 75 百万円(同 60.2%減)、経常利益 1 億 24 百万円(同 70.7%減)、純利益 64 百万円(同 77.3%減)となり、損益面で計画未達となった。

四半期別に業績推移を見ると、ネットシェイプ事業、アッセンブリ事業の売上高が低迷し、特に第 1 四半期における利益水準は非常に低かった。為替差損の影響もあり、経常利益も低水準で推移した。

ネットシェイプ事業は、金型部門の国内は第 2 四半期から回復しているが、ユーザー間にばらつき見られる。海外はタイを中心に不振となり、海外向けが減少した。精密鍛造品部門は、国内のスクロール鍛造品が減少した。また、ターボチャージャー部品の構成部品内製化が進捗し、生産量は増加した。海外生産はほぼ前年並みで推移した。その結果、売上高 33 億 32 百万円(前年同期比 8.7%減)となった。

アッセンブリ事業は、国内外で VG ターボチャージャー部品の売上高が減少した。一方、ガソリンエンジン車向けターボチャージャー部品の売上高は増加したが、VG の売上減をカバーするに至らず、売上高 25 億 3 百万円(同 3.8%減)となった。海外は為替換算の影響を受けた。

フィルタ事業は、国内は大型海水ストレーナー等が増加した。海外は石油掘削用フィルタが低調に推移したが、アジア向けのスポット品があり、売上高は 9 億 53 百万円(同 4.1%増)となった。

事業別経常利益率を比較すると、ネットシェイプ事業は特に金型部門の売上高減少により 1.6%(前年同期実績 4.1%)に低下した。アッセンブリ事業も上半期の VG ターボチャージャー部品の売上高減少の影響により、マイナス 0.7%(同 5.4%)に低下した。フィルタ事業は、石油掘削用フィルタの低迷、製品ミックスの影響もあり、9.2%(同 14.7%)となった。

この結果、当第2四半期における経常利益率は1.8%（前年同期比4.1ポイント減）となった。さらに、売上高原価率は82.4%（同3ポイント増）に上昇した。これはアッセンブリ事業の在庫減少が主な要因である。

貸借対照表を見ると、上半期末における資産は151億13百万円（前期末比6億11百万円減）となった。アッセンブリ事業の在庫減少を進めた影響などが出ている。また、負債は52億8百万円（同1億90百万円減）となった。純資産では、為替換算調整勘定の影響が生じている。

営業活動により得られた資金は、主に棚卸資産の減少により10億15百万円の収入となった。投資活動により支出した資金は3億25百万円、財務活動による支出は1億57百万円となった。以上の結果、当第2四半期末における現金および現金同等物の残高は23億79百万円（前期末比4億63百万円増）となった。

◆中期経営戦略の進捗状況

ネットシェイプ事業における事業戦略として、当社の中核技術の根源ともなる新規研究開発用プレス「NFD1000」を導入し、2016年12月より稼働予定である。新規プレス導入の効果は、トータルエンジニアリングサービスの最強化である。精密鍛造金型部門では、新規品開発領域の拡充による受注拡大、また精密鍛造品部門では、独自技術を生かした量産品の開拓を目指している。

2017年3月期通期業績予想については、上半期第1四半期の低調が足を引っ張り、10月25日に通期業績予想を下方修正した。

連結業績予想は、売上高140億円（前期比1.9%減）、営業利益5億70百万円（31.2%減）、経常利益5億円（同34.7%減）、当期純利益3億25百万円（同33.1%減）とした。

下半期は、ネットシェイプ事業金型部門は国内外の回復を見込んでいるが、当初計画は下回る水準となり、精密鍛造品部門はほぼ計画どおり推移するとみている。この結果、同事業の通期売上高は68億円（前期比6.9%減）を見込んでいる。アッセンブリ事業は、特にタイにおける生産回復を見込み、53億円（同8.5%増）と予想している。フィルタ事業は、石油掘削用フィルタの低迷により期初計画を下回り、19億円（同8.4%減）と見込んでいる。連結合計140億円は変更していない。

設備投資については、新たに研究開発用プレスを導入したこともあり、今年度は15億80百万円を計画している。

配当については、創立50周年を迎える年でもあり、中間配当10円、期末配当10円、年間配当は前期と同額の20円を予定している。

◆質疑応答◆

昨年上期以降低迷が続いているが、この状態に対する認識を伺いたい。

事業ごとにばらつきがあり、ネットシェイプ事業の金型部門は回復基調、アッセンブリ事業もこの下半期から回復するとみている。フィルタ事業は順調に進捗しているが、タイで製造していた石油掘削用フィルタがこの第1四半期からほぼ停滞状態にあり、足を引っ張った。一方でバラスト水処理用のストレーナーは量的に拡大しており、トータルとしては伸びるとみている。

フィルタ事業はどのタイミングで悪影響が出始めたのか。

石油掘削用フィルタは客先在庫が積み上がっており、足元ですぐに動くとは考えにくい。

タイで製造後、どの地域に出荷するのか。

某社に出荷し、そこから石油掘削現場に出る。

インドネシアか。

世界各地である。金属フィルタが石油掘削用に使用され始めたのは、従来掘削しなかった深い場所やオイルサンド状態のところを掘削するようになった背景があり、少し時間を要するとみている。

アッセンブリ事業は、売上減以上に経常利益が減少している理由を伺いたい。

ガソリンエンジン車用の売上高は伸びているが、VG ターボチャージャー部品のボリューム減が大きい。

アッセンブリ事業は VG ターボチャージャー向けが戻るのか。

海外が中心に戻ると見込んでいる。

今期の為替の前提および感応度を伺いたい。

ドル 113 円、タイバーツ 3.15 円の前提である。当第 2 四半期の PL に限ると、タイバーツは 3.19 円となった。ドルの影響は余りないが、バーツは前期比 0.46 円のバーツ高である。

ドルが 1 円動いた場合、売上利益に与えるインパクトは幾らか。

ドルに伴うバーツの動きもあり、一口では言えない部分がある。

バーツが変わらない前提ではどうか。

ドル建ての取引は少なく、影響はない。第 2 四半期累計で約 60 百万円の為替差損は、9 月末 3.19 円のタイバーツの影響である。

数年前と比較して利益水準が下がった要因、来期以降の回復余地はあるのか。

アッセンブリ事業は、VG ターボチャージャー部品の生産比率の差、および今期はネットシェイプ事業の利益率が非常に厳しく、この 2 点が数年前の利益水準との差異要因である。

ただ、ネットシェイプ事業は下期には金型が回復するとみている。アッセンブリ事業はガソリンエンジン車用が増えており、数年前の状況に戻るのには厳しいとみている。

来年以降の配当金額の決め方を伺いたい。

安定配当を方針としており、年間 20 円の水準を維持する業績は確保したい。

安定配当とは利益の一定比率配分の維持か、または前期比減の配当はないということか。

通期 20 円を維持できる業績を積み上げていきたいということだ。

来期以降の設備および事業投資先、規模を伺いたい。

来期以降の計画は開示していない。今期はプレス導入のために膨らんだが、来期はそこまで多くはない。

排水スレーナーの市場規模、御社のシェアのイメージを伺いたい。

バラス水対策にはさまざまな方法があり、エンジニアリングメーカーにより考え方も違うが、条約が批准されたことを背景に今後 3～4 年は急激に伸びると見込んでいる。

(平成 28 年 11 月 9 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

<http://www.nichidai.jp/ir/irlibrary.cgi>